

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所が掲げている理念の下 職員と家族 事業所が一丸となり、一人ひとりの方の尊厳や自分らしさを大切にその人らしく暮らせるよう支援に努めている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	個々の介護計画を基に、あくまで入居者の方のペースに合わせたケアを日々取り組み支援に努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	各ユニットに基本理念を書いたものを来訪された人にも見えるよう掲げている。その他 家族会を年に三回行い、その際に地域の方にも勉強会を呼びかけ理解と交流に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの近隣の方とは入居者と散歩に行く際 必ず挨拶をし入居者の方の認知に努めている。隣接の畑の地主の方とは野菜を頂いたりして交流は深まっている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年に一度行っている夏祭りの際は 自治会、婦人会に協力要請をし、交流と共に一日の行事を作り上げ、バザーや催し物盆踊り等で、入居者の方との交流に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>認知症対応の事業所として、認知症に対しての勉強会や相談会を交流会を織り交ぜて地域に呼びかけ、取り組みを検討している。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の外部評価の用紙を見直し、全員で話し合う事で、改善できる所から改善を行い外部評価で学んだことをケアの向上に繋げられるよう取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>			
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>			
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>隣ユニットの入居者の一人にこの制度を活用する必要がある、支援を行っている。この方のケースで個々の必要性を話し合う事で、制度を活用した支援を提供することができた。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止のセミナーへの参加やカメラを通じインターネットで様子を伺えるにし、虐待が見過ごされる事がないように事業所全体で防止に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を行う際には見学、文章、口頭での説明、又デイサービスの体験等、急に環境を変えるのではなく、不安を取り除いた状況を作り、理解、納得を図っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見 不満 苦情が出た際は一人で解決せず、管理者 職員 運営者 家族と相談し、最善の方法を話し合い、入居者、家族の方への安心へと反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の状況を月一回手紙で報告している。金銭については個々にこずかい帳を作成し、残金が少なくなると家人に連絡している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの不満はどの職員が対応しても管理者に報告、連絡、相談し、管理者から運営者に報告、連絡、相談し外部へ表せる機会を設け、苦情処理の用紙を常備し運営に反映させている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>一ヶ月に一回のカンファレンスの際に運営者、管理者から職員に意見を求める姿勢を持ち、職員から出た意見、提案をアセスメントしケアの向上に反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者と副主任が情報を共有し、管理者不在時は副主任が対応を行う。大切な話し合いの際は事前に連絡をさせて頂き必要な時間に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>全職員が両ユニットを把握し、協力しあえる体制をとっているため 入居者は全職員と馴染みになっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は受講できる環境作りと情報提供をしている。又、仕事を通じての助言、資料の配布をし仕事を通じて話し合うことは職員のレベルアップにつながっている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の勉強会や相互実習に参加し県内の事業所との交流の機会を持っている</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員が悩みを訴えたり、相談のしやすい雰囲気作りが必要だと考えているので、常に全ての職員に声をかける配慮をしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々の個性を尊重し、長所や短所を認めた上での役割分担をし、各自が向上心を持って働けるよう努めている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の視点に立って支援するよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が相談や意見を伝えやすいような場面作りや雰囲気を持つよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、家族と本人 他のサービス事業者と話し合いをしながら支援を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスの体験、職員と入居者との顔合わせ等を行うことで 馴染みの関係を作ることから始めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者ができることは自分ですするという機会を多く作ることで教わることも多くあり、礼儀作法や言葉使い等、様々な場面で教えられることが多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの希望や相談に対応しながら共に支えていく関係作りをしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	なかなか来てもらえない家族には月一回の手紙に加え電話連絡等で状態説明をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や希望先を聞いた上で外出支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個性や相性等を把握し 居場所の配慮をしている。食事の席等 状況に応じて席替えをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居者や家族の不安を取り除けるように相談、支援が不可欠だと考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ひとりひとりの伝えたいことをしっかり受け止め、職員側から本人に分かる様に伝える。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人らしさを継続しながら、記憶に残る過去の経験を暮らしのなかで活かしていく。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	自立支援を図る為に「出来ること、出来そうなこと」を手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにする。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の気づきや意見を取り入れて作っている。全ての職員が計画の内容を知ることが出来る。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間をかけて介護計画を実施し、何ら状態に変化が無くとも最低三ヶ月に一回程度は見直しを行う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日変わる本人の状態や気持ちにそって、きめ細かな対応を行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接のデイサービスとの交流による余暇活動の充実や訪問看護の利用等、必要に応じた対応を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	展示会等に参加することで創作活動時のボランティアの協力、展示会場での参加の支援等 交流に努めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	リフレッシュサービスや福祉用具の購入等、必要な支援を適時 利用出来るように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護・オムツの支給の必要性のある方等、入居者の継続的な暮らしをより良いものにしていく視点に立ち情報交換や相互協力を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々起こりえる心身の変化や異常に対し素早く適切な判断と対処を行えるよう普段から気軽に医療関係者に相談することが出来る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する診断や治療、対応方法等について、指示や助言をもらえる医師を確保している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	必要に応じて看護職が定期的に来訪してくれるので相談や助言をもらうことが出来ている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の目的を一日も早く達成し、入院による心身のダメージを最小に食い止める為の支援をしている	○	早期退院に向けた退院計画を病院や家族と話し合ってもらい、その為の支援を行う。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けての本人と家族の意向を踏まえた上で、医師と本人・家族と職員とが何度も話し合う事で方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	訪問看護師による点滴・吸引等ホーム内で出来ることを明確に伝え、家族と本人に納得してもらった上で、終末期に向けたチームケアを実践できるよう職員全員が心構えをもっている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	突然の環境の変化で混乱が生じないように十分な説明や話し合いを行いダメージの防止に努めている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々に応じた対応や声かけを実施しており、記録も個別に管理 保管している。	○ 個人の尊重・尊厳はホームの理念でもあり遵守していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	約束や希望を聞くときは落ち着いた環境で話しやすい雰囲気を作り意見を出しやすいよう促している。又スタッフは常に傾聴する姿勢で支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人にとっての生活の場であるよう時間や決まりにとらわれず、ゆったり穏やかに暮らせるよう支援している。	○ 全ての入居者に実施できるよう取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に一度美容師が来訪してくれホーム内で実施。衣類に関しては外出支援で買い物を楽しみながら購入出来るよう支援している。	○ 家族の協力で行きつけの美容院を利用したり化粧品を揃えてもらっている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季の食材を豊富に取り入れ下ごしらえや盛り付け等、個別の能力に応じ一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	誕生日にはその人の好物を揃え、苦手な食材は個別に食べやすいメニューに変更等支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	使用する尿パッドの厚みや大きさ等 出来る限り異物感を与えず個々に合った物を使用。排泄リズムを整え、誘導を行い支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	これまでの生活リズムを出来る限り尊重し、順番や入浴介助、同性介護等配慮している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調に応じて適時休息をとって頂き、就寝前にはリラックスした環境を整える。照明や騒音等にも配慮している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人が入所前より行っていた役割や楽しみを出来る限り継続できるよう支援している。掃除や洗濯・草花の手入れ等、声かけし共に行う。	○	年間行事や月間行事を行い地域や家人との交流も深めている、又陶芸や手芸教室の場も作っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知レベルが様々であることからトラブルにも発展しやすい為、現在は個々のおこづかいをホームで管理している。必要な時はいつでも本人希望により渡している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	運動不足による筋力低下を予防する為にも外出支援をしている。利用者の体調等に配慮した散歩や買い物をする事により、気分転換や社会交流も図れる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見や外食等の希望を聞き支援している。家族にも協力を求め同行して頂いたり、家族とだけの外出も行っている。	○	社会参加の場を増やすことで生きる楽しみや意欲の向上に繋げていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	適時に声かけし支援している。ホーム内に公衆電話を設置し、いつでもコミュニケーションがとれるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	あくまでその人の生活の場を提供しており、施設らしさを感じさせない空間にしている。玄関やリビングの家具等に生活感を感じさせた配慮をしている。	○	自分の家に帰るような雰囲気作りを常に心がけ、温かな対応をしている。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いつでも出入り出来るよう入り口は開放されており、制約の無い環境で生活を支援している。不穩に陥った場合も寄り添い行動を共にすることで自由を妨げないケアをしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険回避の為に勝手口のドアにはチャイムを取り付けている。鳴るとすぐに対応する習慣が身につけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自由に外気浴等をされる方においては、外に出る気配を見落とさない見守りや連携した支援をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	触ると危険な物は目に付く場所に置かないようにしている。自室にハサミを保管している入居者の把握をしている。	○	トイレや浴室内に洗剤等を置き忘れないよう留意したい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書で事例を検討し改善出来ることはすぐ対応し、周知徹底することで事故防止につながると考えている。		

グループホームすずらん内原自己評価(ほほえみ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	資料等で個々に学習をしているが訓練まではしていない。	○	どのような事態にも対応出来るよう、全員が危機意識を持つ為にも定期的な訓練が必要と思われる。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は年に一回行っているが、地域への協力を得る為の働きかけは行っていない。	○	散歩時の挨拶程度ではなく、もっとゆっくり地域の人と交流が持てれば自然とそうした働きかけにもなると思うので、積極的な交流を心がけたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会等への積極的な参加を求めると共に、状況の変化観察を行い報告、話し合いの場を設けている。	○	責任者や担当ケアスタッフにより、適時アドバイスや対応策について説明 理解と協力を求めて頂けるように対応している。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェック表には全スタッフが目を通し平常値を把握し、主治医と連携をとっている。	○	申し送りでスタッフの連絡不足をなくし、まめに情報の共有化を図っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイリングし変更・中止薬に注意を払う。用法・用量についても不明な点、異常等見受けられる場合は直ちに主治医もしくは薬剤師に確認する。	○	薬の保管場所に注意すると共に安全に使用出来るよう努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食生活に配慮し規則正しい生活を送れるよう支援し自然排便を促す。消化の良い食材や調理法に工夫をし日常に軽い運動を取り入れる。	○	レクリエーションを含め体操や散歩を日課にする。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを誘導し就寝前に義歯の洗浄を行う。	○	誤えん性肺炎等 健康異常も引き起こす可能性もふまえ、全対象としての徹底支援をしていきたい。

グループホームすずらん内原自己評価(ほほえみ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>生活シートを利用し、不足や異常の発見に努めている。スタッフの情報交換により具体的な個別支援をしている。</p>	<p>○</p> <p>テーブルにポットを置きいつでもお茶を飲めるようにしている。適時に水分摂取を促す。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>食前や排泄後又、外出より戻った際の手洗いと嗽を促している。玄関に消毒剤を設置し外部訪問者にも協力を促している。</p>	<p>○</p> <p>感染予防対応マニュアルを作り予防に努めている。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>台所や調理場が不衛生にならないよう生ゴミの処理は迅速に行い調理用具は消毒・乾燥を行っている。</p>	<p>○</p> <p>常に新鮮な食材の購入をし、期限の管理や保管場所の確保をしている。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>靴箱横にイスを置き安全に靴の脱ぎ履きができる。玄関入り口に花壇を設けやすらぎの雰囲気を出している。</p>	<p>○</p> <p>ホームの入り口が奥まっている為分かりづらい。訪問者に周知しやすくするよう、大きめの看板を立てたり目印を設置したい。</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カレンダーや時計を見やすい位置に設置。壁面には四季折々の花を飾ったり、入居者の生活シーンを写した写真を貼り出している。</p>	<p>○</p> <p>台所がどうしても背面で死角となる為カウンターを設置し、入居者を見守りながら調理に取り組めるよう配慮する。</p>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人ひとりの居場所やくつろぎの空間としてソファーや椅子を置いている。又テレビの前にはコタツを置き、皆で座り団欒の場を設けている。</p>	

グループホームすずらん内原自己評価(ほほえみ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自 馴染みの家具を持ち込み生活史に添った居室作りをしている。好きな家具や装飾品を置き安心して生活を送れるよう工夫している。	○	転倒リスクの高い入居者の居室にはカーペットを敷き詰め怪我の予防策としている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	スタッフによる管理。適時 窓を開放する等、換気に努めている。	○	温湿度計をリビングや居室に設置したい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には手すりが設置、トイレも西・東に二箇所あり車椅子利用者にも安全に使用できる。浴室は深い目だがバスボード・踏み台等の併用で使用。	○	トイレに関しては座高が西と東では違う高さで設置している。手すりもレバー式になっている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食器や持ち物に氏名を記入し、他との区別が出来るよう配膳する際トレーに置き分かりやすくするよう配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	草花や樹木を適所に植えることにより温かな雰囲気を作る。併せてベンチスペースを作りリラックスした共有スペースを設けている。	○	地域の方へも声かけし、一緒に共有出来るスペースとしたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個々の生活史にそって、その人本来の姿をありのまま受容し、最後までその人らしい人生を送れる生活の場としてスタッフ一同支援している